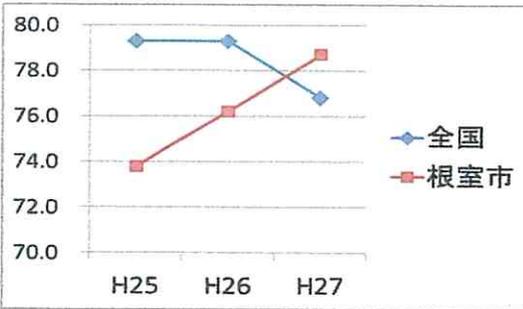


根室市 CRT 検査結果分析 (H25~27) 【小学校・国語編】

一年国語

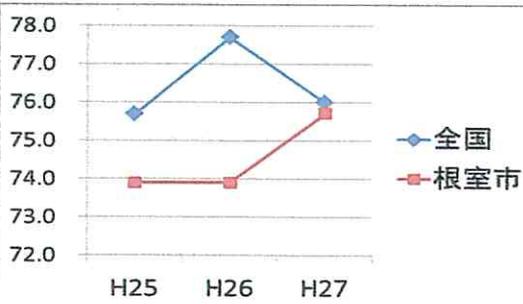


平成 25、26 年度の分析から、「話題に沿って話し合うこと」「説明的な文章を読むこと」の力を伸ばすため、聞く指導の充実、ペアやグループ学習等を中心に取り組んだ結果、全体的な国語力も向上した。

平成 27 年度の CRT 結果は全国比 102.5% と開始来初めて 100% を超えた。各領域においても高水準であったが、「伝統的な言語文化と国語の特質」における『文字に関する事項』については課題が見られた。

この解決と、更なる学力向上のために、系統性を重視し、「文学的な文章を読むこと」ではかかっている事柄の順序や場面の様子に気付かせたり、「書くこと」では、順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書く能力を身に付けさせたりするための授業改善を図る。また、この取組を通し、読書を楽しむ態度も育てる。

二年国語

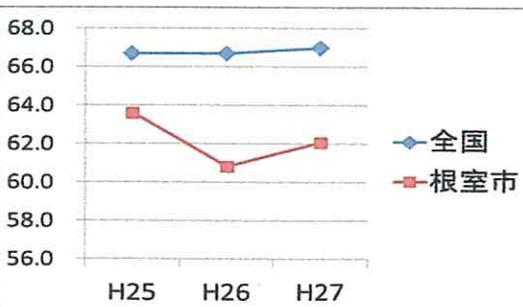


「文や文章を正しく書く」「主語と述語について知ること」が共に全国より落ち込んでおり、その強化に取り組んだ結果、両者とも全国比と同様の結果となった。その効果が波及し、学力全体も伸び、全国同等の水準となった。

平成 27 年度の CRT 結果は全国比 99.6% だったが、「書くこと(書く順序や事柄を考える)」、「読むこと(文学的な文章を読む)」が低く、それが全国水準を超えることができなかった要因となっていた。

その解決のため、1 年生と同様に想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書く能力を高めるほか、この観点と連動させ、言葉等の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む力を身に付けさせるように努める。

三年国語



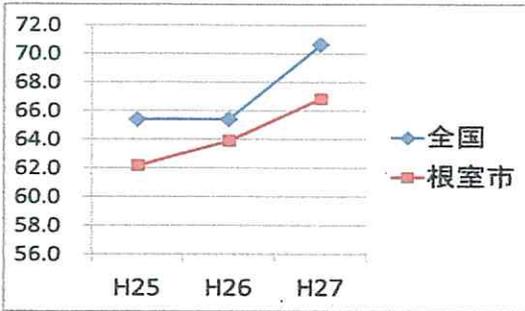
「ローマ字を読んだり書いたりする」「辞書を活用すること」が著しく低く、ローマ字の濁音、半濁音等の練習機会を多く設けたり、時点で言葉の意味の調べ方を正しく身に付くよう菜「活動を多く取り入れて授業を行った。

ローマ字については約 10%、辞書の活用については約 20% 上昇し、これまでの取組の成果が現れた。その反面で「目的に応じて構成を考えて書く」「説明的な文章を読む」のポイントを下げ、全体的な力を伸ばしきるところに課題が見られた。

「書く」領域では、段落相互の関係などを注意して文章を書く能力を身に付ける工夫、「読む」領域では、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を付けさせるための授業構築を行う。

根室市 CRT 検査分析結果 (H25~27) 【小学校・国語編】

四年国語

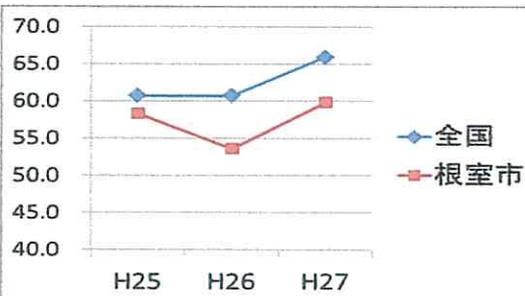


「目的に応じて適切に話すこと」「辞書を活用すること」が全国比-10%と大きな落ち込みが見られ、その対策として辞書指導の強化と、図表や絵、写真等から読み取ったことを話したり、聞いたりする言語活動に取り組んだ。

全国とはやや差が開いたものの、取組の成果が少しずつ現れ、この3年間で上昇を示している。しかし、平成27年度調査では「書くこと」で約10%、「読むこと」で約6%劣っていたため、今後この領域の強化が急務である。

各学校において、『書こうとすることの中心を明確にし、構成を考えて文章を書くこと』を重点とし、物語を書いたり、その感想を述べたりする活動のほか、『紹介したい本を取り上げて説明すること』では、読書発表会を通し、場面や登場人物の気持ちの変化等を想像しながら読む活動に取り組み、二領域を強化する。

五年国語

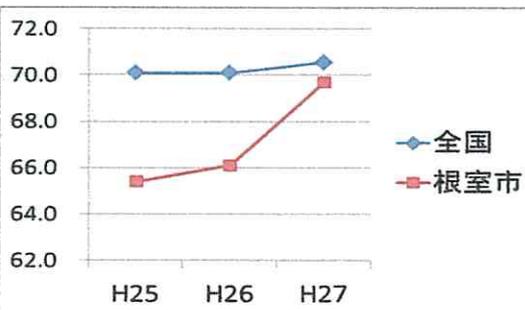


「古典の文章に親しむこと」「説明的な文章を読むこと」が極めて低く、これらの強化のため、古典の暗唱や群唱等の音読指導、文章の内容を押さえ、求められている表現を理解させ、まとめる指導に取り組んだ。

平成27年度検査結果は上昇したものの、依然として全国との差が5%程度あった。その要因として、書くことについては約10%の上昇が見られたものの、全国比約-10%の差があったためと考えられる。

今後、「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章を書いたり、編集したりする」活動に取り組むほか、「本を読んで推薦の文章を書く」という「読む・書く」の複合的な言語活動に取り組み、全体的な国語力を高める授業を展開する。

六年国語



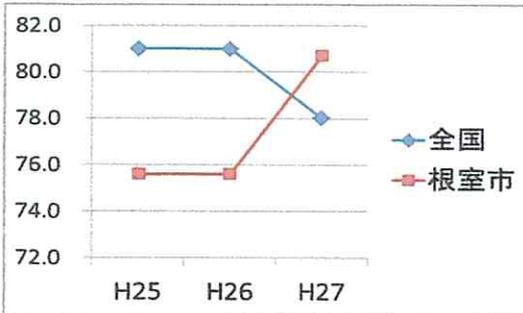
「敬語を理解して適切に使うこと」「組み立てを工夫して話すこと」が極めて低く、日常の言語活動(相手との関係を意識し、敬語等を使い話す)の充実のほか、資料を提示しながら説明や報告をする言語活動を強化した。

これまでの取組の成果が現れ、ほぼ全国と同水準の結果となった。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」では全国比を超え、積み上げた実践が児童の力となっていることが証明される結果となった。

今後、さらに児童の国語力を高めるために、「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章等を書いたり編集したりする活動に取り組むほか、物語を読み、心情や描写をとらえ、優れた叙述について児童自身の考えをまとめる活動に取り組む。

根室市 CRT 検査分析結果 (H25~27) 【小学校・算数編】

一年算数

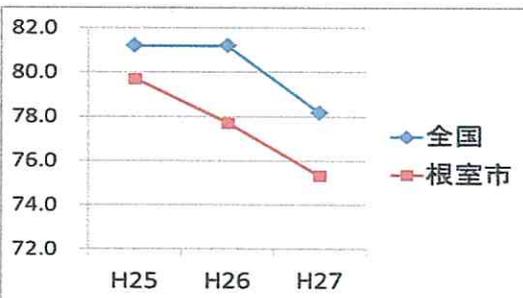


平成 25, 26 年の分析から「ものの形・位置」「たし算やひき算の式」の課題がある傾向が見られた。そのため、積み木等の具体物を用いたり、教室等における実生活での具体的場面に加法減法を結びつけたりする指導を行った。

これまで見られた弱点克服の授業を展開した結果、全ての領域で全国を上回ることができた。全ての基礎基本となる「たし残やひき算の式」の習得が「量と測定」「数量関係」に良い影響を与えていることが分かる。また、「ものの形・位置」においても大幅に上昇するなど、指導が効果的であったと考えられる。

「ものの形やものの位置」「たし算やひき算の式」や数学的な考え方に関わる設問の正答率が低いことから、今後さらに具体物や半具体物を用いて考えさせたり、それらの言葉を使って説明させたりする授業を行う。

二年算数

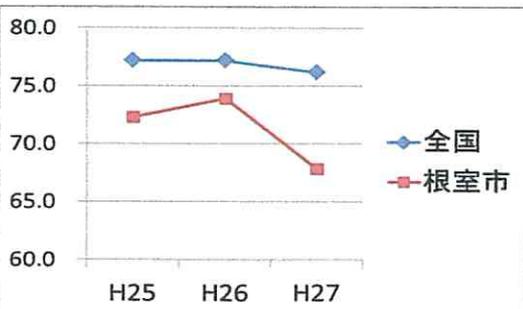


特に「かさ(量と測定)」「三角形や四角形(図形)」で低い数値を示していたため単位用語の習得と共に日常生活で使用する具体物を示すほか、図形はその構成要素に着目した指導を通して確実に定着するよう取り組んだ。

三角形と四角形こそ全国比には 15%の差があったものの「かさ」については同等の数値まで上昇した。「数と計算」「量と測定」は全国水準を超えているが、「図形」「数量関係」の落ち込みがあったため、全体的な伸びには繋がらなかった。

問題を読み、「図をかく」ことが未定着であることが推測されたため、問題文の内容を読み取ることができるようにすること、読み取った内容を理解し、正しい図をかくことができるように指導することに取り組む。

三年算数

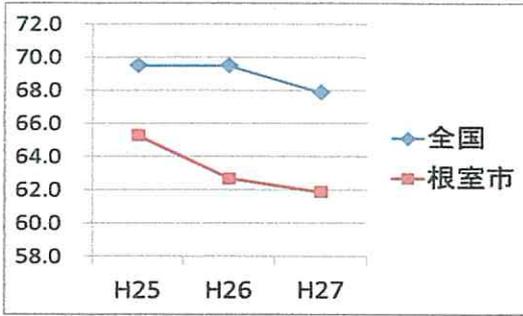


「分数の表し方や簡単な計算」「長さや単位のはかり方」の習得率が悪く、その強化のため、具体物を用いた分数の意味や計算、基本となる 10m、100m と言う「基本的な単位から km についての理解を促す指導を行った。

分数の表し方や簡単な計算については、若干の伸びは見られたものの、長さの単位とはかり方の中で、特にメートル換算の習得率が低く、これまでの取り組みの効果は見られなかった。

今後は、単位記号の意味を理解させ、単位換算を習得させるための授業構築を行う。また、1目盛りの大さきを読み取り、示されたはかりの目盛りを読むだけでなく、読む目盛りを導いた過程を、言葉で表現できるようにするなどの言語活動に取り組む。

四年算数

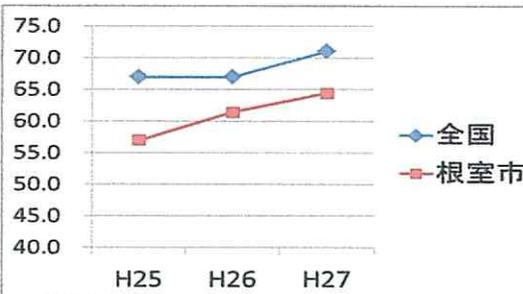


特に「面積」「割り算・桁数の多い計算」の習得率が悪く、作業的・探求的活動を通して量の大きさを数値化し、面積を求めさせる。また、「たてる、かける、ひく、おろす」操作の意味を具体的に理解できるよう指導した。

計算能力は徐々に上がり、特に割り算、小数計算、四則混合計算については、ほぼ全国同水準となった。その反面で強化してきた「面積」と「図形」については未だ定着率が悪く、全国との差は大きい結果となった。また、数と計算の「四捨五入」や「大きな数」で課題がある。

そのため、面積の単位を確実に習得させ、それぞれを単位変換する力を養う授業構築を行うほか、概数の処理方法の理解と習得や大きな数を読んだり、表したりする力を身に着ける授業を構築する。また、知識を使い、考えたり、説明したりする活動に取り組んでいく。

五年算数

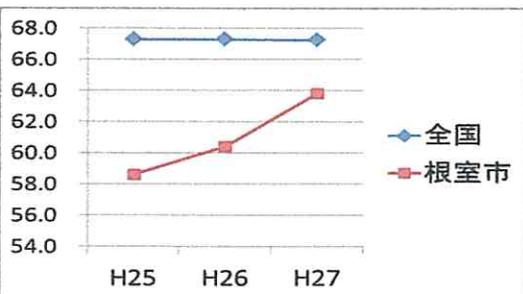


「面積(量と測定)」「2つの数量(数量関係)」が十分に習得していない傾向があったため、具体物を用いた説明を行うほか、表を書いたり読み取ったりする活動を多く取り入れた授業を展開し、それぞれの取得に努めた。

焦点化して取り組んだ「面積」「2つの数量」については少しずつ伸び、これまでの取組の成果が現れた。しかし、分数と小数、単位量あたり、測定値の平均では大きな課題が見られ、早急の対策が必要である。

これらの問題の特徴として、それぞれ長文読解の力も必要とすることから、文章傾向から判断する力を養うほか、分数と小数の大小や、分数→小数、小数→分数への変換を理解させる。また、既習事項を確実に習得させながら、単位量あたりの大きさをを用いて比べる学習を強化していく。

六年算数



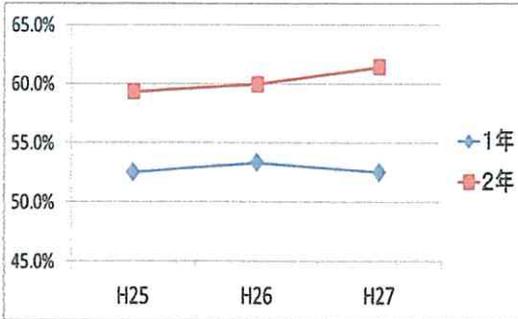
「比例や反比例(数量関係)」「角柱や円柱の体積(量と測定)」が落ち込んでおり、日常生活の中から比例の関係のある事象を見つけたり、底面積や高さはどこになるかを常に意識させたりする指導を行った。

「比例や反比例」「角柱・円柱の体積」については取組の成果が現れ、過去2年間と比較し10~20%の伸びがあり、全国との差も縮まった。その反面で、およその面積・円の面積及び速さの公式を利用した単位変換に大きな課題が見られた。

その解決のため今後も比例や反比例の取組については継続するほか、速さの単位量あたりの考え方と公式・単位、単位量を変換した考え方の理解を促進させる。また、グラフをかいたり、読み取ったりする活動の指導を強化して授業を進める。

根室市 CRT 検査結果分析 (H25~27) 【中学校編】 1

国語科

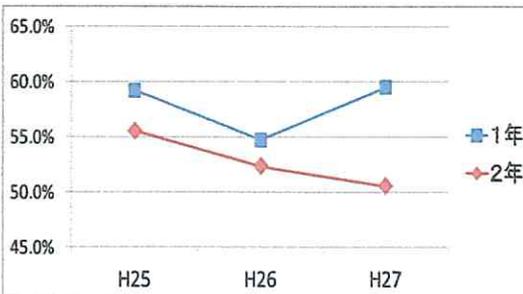


過去 2 年間の傾向分析から、1, 2 年生とも苦手としている「古典的な文章に親しむこと」等を強化するための授業を行い、2 年生は大幅な伸びを見せたが、1 年生では横ばい状態で今後も継続した指導が必要である。

1 年生全体を通して『読解力』が十分に身に付いておらず、大きな課題となっている。2 年生は積み上げが必要な「漢字」が全国比と開きがあることから授業構築の工夫改善と共に自主的な学習習慣の定着が急務である。

今後の学年共通した取組として、①継続的な小テスト・単元テストの実施、②授業での反復的な学習、③国語辞典の活用、④古典作品の音読・暗唱の反復練習、⑤チャレンジテスト等の活用、⑥教科書題材に関連した説明的・文学的文章の導入、⑦説明的・文学的文章の読解練習を行い授業改善に努める。

社会科

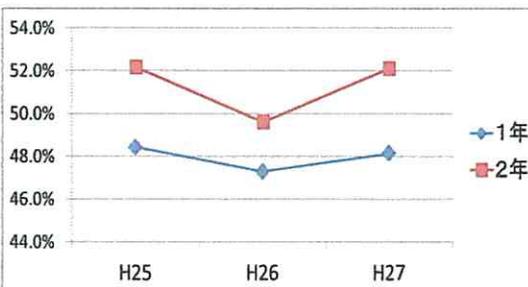


1 年生では特に歴史分野「平安時代」が著しく低く、2 年生は「江戸時代」の習得率が低かった。そのため、その両者の課題解決のため、資料の読み取り能力を伸ばすために、単元のまとめ方についての授業改善を行った。

過去 3 年間の傾向分析から、地理分野においては「アジア」「ヨーロッパ」「関東地方」、歴史分野については「平安時代」「江戸時代」の力を伸ばすための授業構築を行う。

具体的には、①資料によって社会的事象を取り上げ、展開する授業の実施、②資料から読み取り判断した根拠を表現する言語活動の充実、③繰り返し等による知識の確実な習得、④生徒にとって分かりやすい指導法及び教材教具の工夫を中心に授業改善する。また、平成 27 年度に作成した「確認テスト」を活用し、これらの定着に努める。

数学科



関数に焦点を当て取り組んだ成果が現れ始めたため、今後も引き続き、その定着に努める。ただし、短期的、単発的な取組となった傾向もあり、今後、関数のほか、1 年・方程式、2 年・図形の強化も継続的に取り組んだ。

CRT の分析から「数学的な見方や考え方」が特に落ち込んでいたほか、「数学的な技能」「数量や図形」も全国比から落ちている。

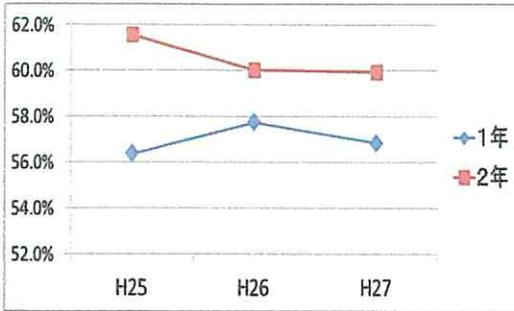
そのため、今後の授業改善として、①既習事項の復習の授業への位置付け、②家庭で見直ししやすいノート指導、③数学用語の理解促進、④生徒個々に合わせた学習方法の提示(同時処理や継次処理)等を行っていく。

学力向上の基本は日常実践であることを念頭に置き、どの領域であっても、そのすべてに共通する効果的な授業構築に努める。

根室市 CRT 検査結果分析 (H25~27) 【中学校編】 2

理

科



3年間ほぼ横ばい状態であるが、これら分析結果について根室市教育研究会理科部会においても共有するほか、得点率の高かった指導法について全体化したり、教師自身の指導における困り感を解決したりする取組を行う。

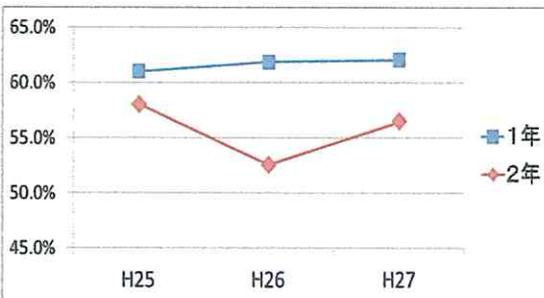
1年生において、「生物の観察」「植物のなごま」「水溶液の濃度」の領域の得点率が低かった。教科書と根室の植生の差違についての理解不足や濃度計算を苦手にしてきた。2年生においては、全般的に全国よりも高く、昨年度のプロジェクトで取り組んだ「化学変化」等の指導の充実化が結果となって現れた。

今後の課題として、「動物のからだのつくり」とはたらき「物質の成り立ち」「化学変化」は、それぞれの覚えるべき言葉や記号を確実に身に付けさせることを重点とし、ICT等を活用したり、まとめの時間を工夫する。

英

語

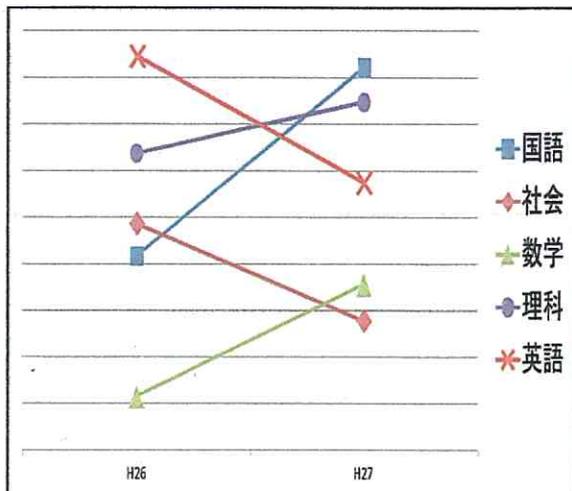
科



平成25、26年度の分析より語彙力の不足から内容把握、英語での質問に対する応答する問題において全国との差が見られ、その対策として重要語句の指導、疑問文とその応答についての学習を強化した。

1年生においては大きな変化は見られなかったが、2年生においては前年度の落ち込みから回復した。また、1年生「基本的な単語や英文を書く」項目においては10ポイント、2年生「内容を捉え、賛否や、その理由を示す」では、約13ポイントの上昇が見られるなど、取組の成果は確実に現れている。

今後は、語彙指導の強化のため、市内で共通した単語テストの実施のほか、重要文及び疑問文の着実な定着に向けて取り組み、英語力の向上に努める。



左の図は、2学年の各教科の経年変化を表したグラフである。前年度と比較し、学習内容の難易度が増したにも関わらず3教科が上昇を示しており、プロジェクトで取り組んだ効果が伺える。その反面、下降を示した2教科については、強化策を講じた領域については成果が見られたものの、他の領域においての未定着さが全体を引き下げた結果となった。

今後、市内新設高等学校にほとんどの生徒が進学することを鑑み、根室市全体の基礎学力の定着はもちろんのこと、生徒一人ひとりの学力向上に努める。